

人にやさしく！

校長 新居崎 杉彦

2学期も「人にやさしく」でいこう！

夏休みが終わり、学校に子どもたちの元気な声が帰ってきました。いよいよ2学期が始まりました。昨年度に比べると今年はいつも通りの夏休みとなりましたが、子どもたちは有意義に過ごしていただでしょうか。子どもたちの生活サイクルが「学校バージョン」になるには時間が少しかかるかもしれませんが、根気強く声かけをよろしくをお願いします。

また、この夏休みは、新型コロナウイルス感染症の予防のために、ご家族で旅行をされたり、帰省をされたりすることは難しかったようですが、多くの子どもたちは、東京オリンピック・パラリンピックを見て今までに無い刺激を受けたことでしょう。私たちも、ひとりひとりの可能性を広げ、子どもたちが自主的・自立的な活動ができるよう一緒に歩んでいきたいと思ひます。2学期も、皆様のご支援とご協力をよろしくをお願いします。



「折り鶴プロジェクト」の様子

さて、ますます新型コロナウイルス感染症が広がり、世の中は大変不安定な情勢となっています。また、ワクチン接種に関わっても、様々な偏見や非難、差別的な事象が起こっています。もし、子どもたちの世界にこのようなことが起これば、更に気持ちに余裕がなくなり、友達を傷つけ合う「加害者」「被害者」となりうるかもしれません。昨日の始業式では、「こんな時こそ人にやさしく」という話を子どもたちにしました。その中で、「病気になるのが怖いという気持ちに負けて、友達にひどいことを言わないこと」を子どもたちにお願ひしました。本校の合い言葉「人にやさしく、自分にきびしく」を今こそ実践してほしいと伝えました。

ご家庭でも、「感染症は、一人だけの努力では予防できない、お互いに支え合わない」と乗り越えられないことを子どもたちにお話していただければと思います。そして、いつもお互いの言動が思いやりにあふれているように願っています。

6年生「戦争体験講話学習」

7月6日に「アオギリの会」の吉本 美子さんに来ていただき、6年生の「戦争体験講話学習」をおこないました。吉本さんは、戦争中に広島県呉市に住んでいて、ご姉妹が被爆されたことや空襲に遭ったことを分かりやすく話してくれました。防空すきんをかぶせてもらったり、当時の資料を見せてもらったりして、子どもたちにとって戦争の悲惨さが身近に感じられる大変良い機会となりました。



また、7月5日～9日まで、東京の「昭和館」から、戦中・戦後に使われていた「防空すきん」や「召集令状」「千人針」や「黒塗り教科書」などをお借りし、図書室に展示して調べ学習をおこないました。調べ学習班は、ヒロシマ・ナガサキ・オキナワ・柳本飛行場について調べ、戦争関係の展示品を使って、自分たちでクロームブックで編集してまとめました。

7月8日には5年生が見学しましたが、6年生が総合学習で取り組んできた戦争について調べてきたことや感じたことをしっかり5年生に伝えることができました。



図書委員会「読み聞かせ」

6月17日～29日まで、図書委員会で、「絵本の読み聞かせ」をおこないました。みんなにもっと図書室を利用してたくさん本を読んでもらうために、子どもたちが計画しました。「本を読もうカード」を作って実施すると、中休みにはたくさんの児童が来てくれました。図書委員は、たくさん利用者で大忙しとなりましたが、これをきっかけとしてもっとみんなが本を読んでもらえることを願っています。他の委員会のみなさんも、このような楽しい取組をよろしくをお願いします。



平和集会（反戦平和折り鶴プロジェクト）

7月19日に、「平和集会」がおこなわれ、6年生が中心になって、反戦・平和について全校で考える時間をもちました。たてわり班ごとに教室に分かれ、「家族と友だちとともに生きられるあたりまえの幸せに感謝しよう」というテーマのもと、放送室からテレビ放送でおこないました。その中で実行委員は、ヒロシマの原爆のことを伝える『ヒロシマ 消えたかそく』の読み聞かせをしました。また、折り鶴を届けて平和を願う気持ちを広島に伝える「折り鶴プロジェクト」もおこないました。高学年が、たてわり班のみんなに折り方を伝えて、平和への願ひが学校中にあふれました。今秋に、昨年度の折り鶴と合わせて広島に届ける予定です。

